

31. ポスターセッション

生活科や「総合的な学習」の中で、ある程度の学習成果が得られた時には、発表交流をする場を構成するが多くあります。発表交流の場の本来のねらいは、自分が学習したことを再構築することと、他者からの評価を得ることでしょう。

しかし、発表する側の思い入れが大きいわりには聞く側の必要感や関心には配慮がなされない場合や、聞く力・聞き取る力の未発達によって評価は、得られないままとなってしまう場合も少なくありません。

そこで、関心をもった聞き手を選択して発表する方法の一つとして挙げられるのがポスターセッションです。

ポスターセッションとは

発表したい内容を規定の紙面にコンパクトにまとめ、それを会場内に掲示する。結果として、同会場に様々なポスターが並ぶことになる。聞く側は、そのポスターによって自分の関心のある発表を選ぶことができる。発表する側は、聞き手にニーズがあることを確認し、そこで初めて詳しい発表を始めることになる。聞き手と対面しているため、質問などにもその場で応じることが出来る。

学会などでも最近はこの形が主流だそうだ。難点としては、聞き手が現れるたびに何度も同じ発表を繰り返さねばならないということである。聞き手にとっては、自分の自由になる時間に合わせて関心のある内容を選択することが出来るのであるから、理想的である。

— 実践するにあたって —

生活科では、内容別グループが同会場で同時に発表をするという意味に遭っています。ただし、同規格のポスターという所にはこだわっていないので、ワークショップとの違いは明確にはされていません。ポスターにコンパクトに表すという力、ポスターから知りたい内容を見取り、読みとって選択するという力がまだ十分ではないからでしょう。

今後、高学年の「総合的な学習」の発表交流には、このポスターセッションという形態が用いられる可能性は高いと思います。同会場でも発表者ごとに仕切りを設けたり、発表者が校舎内の各教室に分かれて配置し、ポスター代わりに校舎内地図を配布したりというような実際的な工夫がされていくと、双方ともに価値のある発表交流の場となることでしょう。